

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算      支出科目 款：総務費      項：企画開発費      目：交通対策費

### 事業名    **バス運転手確保支援事業費補助金**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

都市建築部 公共交通課 地域交通係    電話番号：058-272-1111(内 2732)

E-mail：c11134@pref.gifu.lg.jp

**1 事業費                    4,900 千円 (前年度予算額：4,800 千円)**

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,800	0	0	0	0	0	0	0	4,800
要求額	4,900	0	0	0	0	0	0	0	4,900
決定額	4,900	0	0	0	0	0	0	0	4,900

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・運転手不足は深刻になってきており、自動車運転における有効求人倍率は2.84と、全職業平均(1.33)を大きく上回っている。
- ・近年、運転手不足により路線バスの便数の削減や路線の廃止が起こっている。コロナ禍においては、貸切事業の運転手を乗合事業に回すことなどにより不足感が解消している部分もあるものの、コロナ収束後には、再び運転手不足が問題となることが予想される。
- ・県内の路線バス運行事業者では、すべての事業者において大型二種免許取得費用に対して助成を行っているが、負担が大きいため、県に対して「大型二種免許取得費用の補助」への支援策が望まれている。

### (2) 事業内容

平成30年度末現在の運転手数を確保するため、乗合バス事業者が従業員の大規模二種免許取得に要する教習費用を負担する場合に要する経費を補助する。ただし、対象者数は定年以外の事由により退職した者の数を上限とする。また、乗合バス事業に従事した後、5年以内に離職等した場合は、補助金を返還させる。

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：1 / 2

補助上限額 250,000 円 / 人 (取得費用：約 500,000 円)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	4,900	乗合バス事業者が負担する大型二種免許取得に要する費用に対する補助
合計	4,900	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○「清流の国ぎふ」創生総合戦略

③地域公共交通体系など生活サービスの再編・効率化

(地域公共交通の維持と再編)

- ・ 地域鉄道の維持確保のため、安全運行に必要な設備投資等を支援するとともに、バス交通の維持確保のため、広域幹線バス路線や市町村自主運行バスの運行を支援する。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	バス運転手確保支援事業費補助金
補助事業者（団体）	広域バス路線支援事業費補助金の補助対象系統を運行する事業者（県内に営業所を有すること） （理由）補助対象系統の運行事業者であるため
補助事業の概要	（目的）路線バスの運転手を確保する （内容）乗合バス事業者が乗合バス事業の運転手の業務に従事する従業員を確保するため、大型二種免許を新たに取得させる際に負担する経費を補助
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）1 / 2（以内）
補助効果	運転手不足を要因とする路線廃止、減便等を防ぐ。
終期の設定	終期令和4年度 （理由）事業開始から3年以上経過

(事業目標)

- ・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか  
必要な運転手数を確保し、運転手不足を要因とする路線廃止や減便をなくす。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R1)	R2年度 実績	R3年度 目標	終期目標 (R4)	
				目標	達成率
① 補助事業による新規運転手数	/	16	37	59	27%

	H30年度	R元年度	R2年度
補助金交付実績	- 千円	- 千円	2,905 千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助対象事業者数 3事業者</li> <li>補助対象運転手数 16人</li> </ul>
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない</li> </ul>	
(評価) 2	コロナ禍においては、貸切事業の運転手を乗合事業に回すことなどにより不足感が解消している部分もあるものの、コロナ収束後には、再び運転手不足が問題となることが予想されるため、地域公共交通の維持には運転手確保対策への支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3: 期待以上の成果あり (単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2: 期待どおりの成果あり (単年度目標 100%達成) 1: 期待どおりの成果が得られていない (単年度目標 50~100%) 0: ほとんど成果が得られていない (単年度目標 50%未満)</li> </ul>	
(評価) 2	令和2年度において、当該補助金を活用して、新たに16人の運転手が確保されており、事業効果が得られている。
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている</li> </ul>	
(評価) 1	各事業者の補助制度に沿った制度となっており、効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ禍においては、貸切事業の運転手を乗合事業に回すことなどにより不足感が解消している部分もあるものの、コロナ収束後には、再び運転手不足が問題となることが予想される。</li> </ul>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 運転手不足を要因とする路線廃止、減便等を防ぐためには、引き続き運転手の確保に努める必要があるため、事業を継続していく。</li> </ul>
---

